



全日本空客乗務員に手渡された若布

第四十六回 若布献上

賢所、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、三笠宮殿下へ献上

三月十四日、早春の玄界灘の天然若布を、賢所・天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、三笠宮殿下へ献上をと、高向権宮司、随行神職・漁業関係者らが宮中へ参内し、恙がなく献上申し上げた。

この皇室への若布献上は、昭和三十八年に「宗像七浦」と称される当時の宗像郡内七漁協(大島・鐘崎・神湊・勝浦・地ノ島・津屋崎・福岡)の組合員で結成された「宗像大社海洋神社奉賛会」(現会長 村田繁美宗像漁協地ノ島地区代表理事)設立の際に、宗像大神の御神徳が国家・皇室の守護にあるという由緒をもって、皇室の御安泰と聖寿の長久万歳を祈念して始められた。今年で四十六回目を迎えたこの「若布献上」は秋の「みあれ祭」と並ぶ同会の一大行事である。

献上申し上げる若布は、二月二十日過ぎから



奉告祭後、出発する献上者と若布



4月祭事暦

1・2日 春季大祭

(1日目) 午前11時～ 一日祭
(2日目) 午前11時～ 二日祭
午前11時40分～
高宮祭、第二宮・第三宮祭
宗像護国神社 春祭
交通安全講話社祭

15日 月次祭

午前10時～ 高宮祭、第二宮・第三宮祭
午前11時～ 総社祭

20日 沖・中西宮春季大祭

午前11時～ 於=大島・中津宮

29日 昭和祭

午前11時～



我が国には春夏秋冬の四季があり、人々は四季然と風物を楽しんでくるとともに、時の流れの中で様々な願いを込めてきた。桃の節句が過ぎたこの季節の代表は、やはり桜花を愛でる宴であろう。日本人が桜をこのほかに愛するおもしろい一つに、咲き誇る時間が非常に短く、散りぎわの潔さが、そこはかとない哀愁を誘うからであろう。

「サクラ」にまつわるものとして、神を迎える処としての「さ座」、或いは春にやってくる稲(サ)の神が憑依する座(クラ)から「サクラ」。一説には、富士の頂から、花の種をまいて花を咲かせたとされる「コノハナノサクヤビメ」(木花之開耶姫)から「サクラ」になったともいわれる。

また、枝を挿頭(かざし)や鬘(かざら)にして不老不死を願った、花の散り方で秋の実りの豊凶を占ったなどの風習もある。

古代の人々の切なる祈りの姿が変遷し、現在の花見となったのであれば、現在も我々の気づかないところで、神への敬虔な祈りを捧げていることになるのではと感ずる。(A-I)

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒812-0068福岡市東区社領1-12-10-401 (福岡店) フリーダイヤル 0120-055-092 電話 092-651-9456
授与品店 〒601-8348京都市南区吉祥院観音堂町23 (本店) フリーダイヤル 0120-075-820 電話 075-672-8100

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567

地島沖で採取が始められ、関係者の至誠により時化や厳寒の厳しい条件にも関わらず、順調に進められた。

本年も暖冬の影響により、海水温度の高さが心配されたが、生育も良く地島産特有の肉厚で緑鮮やかな極上の若布が採取された。潮流が早ければ、品質も優れたものとなるだけに、地島沖の若布は極上若布となる条件に叶っている。

採取された若布は、同島特

産の「椿油」が塗られた網の上で、一枚一枚丁寧に乾燥され、二月二十八日に当大社へ納められた。

早速、神前でお祓いされ、神職・巫女が形を整え規定の量を袋に収め、その中から厳選したものを六キロが献上品として奉製された。

三月十三日午前九時三十分、杉箱に納め白布に包まれた「若布」を神前に奉安し、若布献上奉告祭を斎行、本年も献上が無事執り行うことができるよう祈念された。

祭典終了後、献上者一行は、職員に見送られ福岡空港へと出発した。

福岡空港では、当大社巫女からこの献上に格別のご高配をいただいている全日本空輸(株)の客室乗務員への手渡し式を斎行。テレビ局数社の取材を受け、搭乗客が注視する

中、神職によりお祓いされた若布が客室乗務員に手渡され、搭乗機内へと運ばれた。

また、献上者一行が搭乗する全日空二五四便の乗客約三〇〇名に、記念品として巫女から千支の置物が手渡されると、慌しい中ではあったが「縁起物だ」「ありがとうございませ」と笑みを浮かべながらほぼ全ての方に受け取っていただいた。

定刻、空路東京へと向かった一行は、献上に際し東京で高配いただいている出光興産(株)に伺い挨拶後、保管をお願いし、翌日の献上に備えた。

小雨模様ではあったが、温暖な天候となった当日、高向権宮司・随行神職・村田繁美氏(前記)・花田経広氏(宗像漁協神湊地区代表理事)の四名は、出光興産(株)よりご準備いただいたハイヤーで坂下門より宮中へ参内。

先ず、井関英男掌典長に高向権宮司が若布献上の旨を奏申の上賢所へ献上申し上げた。続いて、梅澤宏和掌典にご案内頂き、羽毛田信吾宮内庁長官に御挨拶申し上げた後、

高橋要三侍従の下へ赴き、謹んで天皇・皇后両陛下へ献上申し上げた。次いで宮中参内の記帳を済ませ、宮中三殿仮殿を参拝の榮に浴し、宮中での献上の儀を滞り無く終えた。

宮中を辞した一行は東宮へ参上、野本勲東宮侍従を通じて皇太子・同妃両殿下へ献上、更に板倉幸治宮務官を通じて三笠宮家へも献上申し上げ、ここに平成二十年の「若布献上の儀」は滞り無く終了した。

尚、本年の若布献上に際し、格別のご支援を賜りました出光興産(株)、全日本空輸(株)をはじめ、多数の方々には略儀ながら紙面をもちまして篤く御礼申し上げます。

本年の若布献上者は下記の通り

秀宏	正明	高向	宗像大社権宮司
繁美	村田	飯田	〃 権禰宜
経広	花田	村田	海洋神事奉賛会会長
		花田	宗像漁業協同組合
			神湊地区代表理事



奉製作業の様子



手渡し式の様子



機内へと運ばれる若布



搭乗客の方々に記念品を手渡し

氏貞公墓前祭

三月四日、午前十一時より当社第八十代大宮司、宗像氏貞公の墓前祭がみぞれ降りしきる今年一番の寒さの中、例年通り斎行された。

この墓前祭は、氏貞公逝去四〇〇年忌にあたる昭和六十一年に、当大社と菩提寺である承福寺との墓碑保存の協議の折、神式と仏式で隔年毎に

墓前祭を奉仕することが定められ今日に至る。

本年は、当社の当番年であり、神職三名奉仕の下斎行された。祭典には、当社高向権宮司、承福寺埜村住職、隣船寺田代住職、初代大宮司清氏公以来宗像家に仕え又、代々墓守をしてきた占部家、更には墓所のある上八今門地区の人々



が悪天候の中であつたが多数参列し、氏貞公の威徳を偲んだ。

宗像氏貞公が活躍した室町末期の九州の情勢は、大友氏・龍造寺氏・島津氏の三大勢力が鼎立し、又中国地方からは、毛利氏が九州へ侵攻してきていた。大友・龍造寺・毛利氏が衝突する地は、筑前及びその周辺地であつた。この地方に存在する宗像氏を始め諸勢力は、その時々々の情勢を正確に判断

し行動しなければ、滅亡する時代でもあつた。

このような困難な時代に大宮司職を継いだ氏貞公は、深謀遠慮を巡らし、神郡宗像をこれら外敵から守り、落日の宗像大宮司家の再興を図つた。また戦乱により衰微していた社寺等の復興にも努めた。

弘治三年(一五五七)本殿内陣よりあがつた火は、本殿・拜殿を焼き又多くの神宝が灰燼に帰した。それから約二十年の時を置き、氏貞公が厳しい時勢の中再建された。これが現在の辺津宮本殿である。

これ以外にも神郡内の荒廃した社寺の復興、現在の上八辺りの田地を御神米用田として寄進、神社の改革(祭祀の厳正化等)等々、宗像大神の神威の護持に努めた。しかし氏貞公は、志も半ばの四十二歳、葛岳城で風邪が遠因となり病没する。敵に侵略の隙を与えない為、その死は三年間秘されることになり、亡骸は占部右工門によつて密かに現在の地へ埋葬され、以後、代々占部一族が守つてきた。その後間

もなく氏貞公の願いも叶わず、豊臣秀吉の命によつて継嗣のいない宗像大宮司家は断絶となり、その御神威を遍く知られた宗像大社も次第に衰微していった。

今回の墓前祭を通し、戦国乱世の混迷する時世に、当大社の存立危うき中をよく守り抜いた中興の祖・氏貞公御一代の生涯に思いを馳せ、我々も更なる神道教化に心を尽くす誓いを新たにしました。



人事異動(神職) 4月1日付で人事異動を下記の通り行いました

宮司	神島 定	神宝館々長
権宮司	高向 正秀	社務本局長
禰宜	堤 宏	文化財管理事務局長
"	葦津 幹之	庶務部長・海洋分局長
"	"	宗像大社菊花会事務局長(兼)
"	"	主基地方風俗舞保存会事務局長(兼)
"	"	氏子青年会事務局長(兼)
権禰宜	渡邊 秀丸	経理部長・宮司兼務社管理主任(兼)
"	杉山 安彦	祭儀部長・宗像護国神社管理主任(兼)
"	佐々木 大治	祭儀部 儀式課長・氏子会幹事長(兼)
"	中原 裕生	海洋分局主任(中津宮)
"	"	宗像大社菊花会事務局員(兼)
"	坂本 敬	経理部 用度課主任
"	"	宗像大社菊花会事務局員(兼)
"	御床 直之	祭儀部 賽務課主任・氏子会幹事(兼)
"	"	氏子青年会事務局員(兼)
"	大塚 宗延	庶務部 広報課主任・宗像大社歌会担当(兼)
"	長友 貞治	経理部 会計課主任・庶務部 庶務課(兼)
"	壺岐 貴寿	庶務部 庶務課主任・氏子会幹事(兼)
"	"	宗像大社菊花会事務局員(兼)
"	松林 拓理	庶務部 庶務課員・宮司秘書(兼)
"	吉野 理	祭儀部 賽務課員・氏子会幹事(兼)
"	"	主基地方風俗舞保存会事務局員(兼)
出仕	日高 庸介	祭儀部 儀式課員
"	鈴木 祥裕	祭儀部 儀式課員
"	船越 裕介	祭儀部 儀式課員

責任役員会開催

三月十二日午後四時より、定例の宗像大社責任役員会が当大社勅使館で行われた。

この責任役員会は、新年度の平成二十年度予算審議をはじめ、当大社の事業計画等を審議する重要な会議の一つである。

当日の出席は、宗像大社責任役員十六名中、代表役員神島宮司以下責任役員十一名、監事一名の計十二名出席で開催され



た。

神島代表責任役員が議長を務め議事を進行、先ず本年度の決算見込に基く平成二十年度

社務本局・海洋分局・文化財管理事務局の予算案が渡辺経理部長より説明され、役員一同異議無くこれを承認可決した。

次いで来る平成二十五年に向け、昨年十一月に当宗像地区において設立した「伊勢神宮式年遷宮奉賛会宗像支部」に対する宗像大社の今後の参画活動について高向権宮司より説

明・報告がなされると、役員一同その重儀の趣旨に賛同した。

また、昨年六月より沖津宮社務所の電力がソーラーシステム化され、二十四時間の電力供給が可能となり、そのシステムが順調に稼働して

いる事。当大社の休憩所として永年参拝者の方々に親しまれてきた「交安亭」の移転

等が報告された。

最後に当大社内での年度替りに伴う、転・退職者や採用予定者の報告がなされ本責任役員会は閉会となった。

「主基地方風俗舞保存会」役員会開催

三月七日午後六時より当大社斎館で、田中保政会長氏以下役員に葦津禰宜(事務局員)が出席し、春季大祭奉仕に向け、役員会が開催された。

平成二十年度春季大祭風俗舞奉納に伴う歌方と舞方の選出、温習日程を決定すると共

役員会開催

に、昨年十二月九・十日に実施された霧島神宮、照国神社、知覧平和記念館など鹿児島方面への研修旅行報告が行われた。更に次年度の活動計画についても協議され、総会へ上程することとなった。

当会では少子化や若年層の顕著となり、一時は会員の高齢化も懸念されたが、近年は若い世代の関心も高くなり、ここ数年

は中学卒業生の奉納舞奉仕など、徐々にではあるが若者にも風俗舞の意義が浸透し、今年の春季大祭にも新会員を迎える。

宗像大社の由緒と地域の伝統文化を継承し、保存会が果たす使命を再認識すると共に、活動の

興隆を図るためにも



と、春季大祭へ向けての意気込みを感じた。

今後、奉仕経験者の保存会への入会も可能性が大きく、会の存続と運営に大きなはずみがつくものと思われる。



「神宝館」展示のご案内

近現代の奉納品が加わりました

宗像大社神宝館では、平成十九年十二月に常設展示の入れ替えを行いました。当館では、宗像三女神の由緒と信仰、祭祀を司った宗像(胸形)一族の動向について、様々な観点から認識を深めてもらうことを目的に、年二回ほど展示替え作業を行い、貴重な宝物を様々な切り口でご紹介しています。



「宗像十二支一刀彫」の展示

今回は、当大社の長い歴史を時代の流れに沿って総合的に展示するという構成の軸はそのままに、新たな試みで、信仰の一端が理解できて誰でも愉しめるものとして、一階に「近世から現代までの奉納品」という展示コーナーを設けました。

このコーナーで注目の展示品は、「交通安全願ひ絵馬」と「宗像十二支一刀彫」です。「交通安全願ひ絵馬」は、福岡トヨペット株式会社昭和五十四年に奉納したものです。当時、同社は交通安全キャンペーンを実施するにあたり、神社仏閣などに奉納されている諸祈願の絵馬にヒントを得て一流イラストレーター十二名に絵馬を描いてもらいました。それらを新聞紙上や同社の各支店・営業所などに順次掲載、展示してキャンペーンを展開し、非常に好評を博しました。その後、所期の目的を果たした絵馬を交通安全の守護神を

お祭りする当大社へ捧げたいとの想いにより奉納されたのです。作家たちの個性溢れる絵馬は、いずれも愉快でありつつも交通安全への啓蒙を見事に表現した秀作です。

「宗像十二支一刀彫」は、当大社が昭和三十八年の正月から頒布しているものです。新年を迎えるたびに皆様にお頒けしている干支の彫刻は、二十年毎に行われる伊勢神宮の御遷宮に携わる伊勢の名匠に特別に製作を依頼しているもので、今回の展示では、彫師である保利 拓師、泉 廣典師のこれまでの奉納品と頒布品を一挙にご紹介しています。名匠の精神と技の結晶である作品の数々。個々が放つ魅力と存在感を堪能頂けます。

また、沖ノ島祭祀遺跡出土品を展示する二階では、沖ノ島植物標本の展示も始めました。沖ノ島の生物相は絶海の孤島という範囲と条件の下に独自の生態系をなしており、なかでも植物は、古くから続



▲久里洋二の作品

く島への信仰を背景に、島内のもので持ち出さないといい掟に護られて原生林の状態が保たれてきました。沖ノ島は亜熱帯植物の北限地として

注目されていますが、島の地史的、地理的変遷を示す興味深い植物も多く存在します。植物から自然のあり方をうかがうことで沖ノ島の特異性、重要性を改めて認識できることでしよう。

このほか、当大社の歴史の理解に欠かせない沖ノ島祭祀遺跡出土品宗像大社文書、宋風狛犬や阿弥陀経石などの対宋貿易関係品等々も、一部入れ替えを行い、新たなテーマを掲げてご紹介していきます。国宝、重要文化財の優品が一堂に会す展示は興味の尽きることはありません。皆様是非ご来館下さい。

各テーマと主な展示品

- ①宗像三女神の誕生
- ②中世宗像一族の海外交渉
○宋風狛犬 ○阿弥陀経石
- ③昭和の御造営
神宮撤下神宝 奉納刀剣
- ④近世から現代までの奉納品
交通安全願ひ絵馬 宗像十二支一刀彫
- ⑤宗像一族の誕生と国家祭祀
◎金銅杏葉 ◎唐三彩長頸瓶片
沖ノ島植物標本
- ⑥中世の宗像社
○宗像大社文書
テーマ「古文書にみる現代の地名」
- ⑦近世の田島宮
三十六歌仙扁額
- ⑧辺津宮社殿の造営記録
○辺津宮本殿置札
- ⑨宗像地域の文化財(寄託品)
○色定法師一筆一切経

※◎は国宝、○は重要文化財を指します。
※常設展示の構成の詳細は本報第557号の掲載記事の通りです。
※次回の展示替えは今夏の予定です。



日本では香岐・対馬・沖ノ島のみ分布するキクタニギク



▲国宝 金銅棘葉形杏葉

平成20年・日本海々戦記念 沖津宮現地大祭の御案内

今年も沖ノ島西方洋上で明治38年に国家の命運を掛け戦った日本海海戦の記念日をトして、年に一度沖ノ島に渡島し、『沖津宮現地大祭』が斎行されます。
下記、要項で参加者を募集致しますので、参拝ご希望の方はお申し込み下さい。



■船上から見た沖ノ島



■海中での禊



■沖津宮現地大祭の様子

沖津宮現地大祭要項

- ①参拝者は沖津宮奉賛会費として1名につき、**20,000円**お納め頂きます。
- ②参拝御希望の方は、当大社より『参拝申し込み書』をお取り寄せ頂き、**4月30日迄(必着)**に社務所まで御返送下さい。
- ③沖ノ島渡島前日の**5月26日(月) 18:00迄**に中津宮(筑前大島)に到着し、受付を済ませ、渡島安全祈願祭に御参列していただきます。(祭典後、各班ごとに説明会を行います)
- ④**5月27日(火) 7:00前後**に大島港を出港。
 - ・沖ノ島到着後、直ちに海水で禊をして頂きます。
 - ・祭典は**10:00**の予定です。
 - ・**13:00**沖ノ島を出港の予定で、大島着島は当日の天候次第で変動致しますが**15:00頃**の予定です。
 - ・大島 ▲—▼神湊間のフェリー最終便は**18:00**です。
- ⑤海上模様等で沖ノ島渡島が中止になった場合は、大島の沖津宮遙拝所で祭典を斎行致します。
- ⑥乗船者数に制限がありますので、申し込み先着順の参拝と致します。
- ⑦関係筋の通達により年令70才以上の方や、健康状態が良好でない方、長時間の乗船に耐えられない方は御遠慮願います。
- ⑧申し込み者には、受付後参加の諾否を葉書で御通知申し上げます。

沖津宮参拝心得

- ①遊山・魚釣等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。
もし違反があれば乗船をお断り致します。
- ②沖ノ島上陸の際は、古例により海水で禊をし、心身を清める事。
- ③御神水以外は、一木一草一石たりとも持ち帰る事を禁止します。
- ④厳重なる掟がある為、婦女子の参拝は固くお断わり致します。
大島での宿泊につきましては、参考要項に同封の、大島の旅館・民宿のパンフレットを御参照の上、各自で直接予約願います。
申込書・参拝心得・参拝要項等を用意しておりますので、返信用切手を同封の上、下記宛までお申し込み下さい。



申し込み先

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331
宗像大社社務所 祭儀部『沖津宮現地大祭』係
TEL (0940) 62-1311 (代表)
FAX (//) 62-1315

(続)

茨の寄物

224

いしいただし



昨年九月中旬、東北地方を巡ってきた。福岡空港から仙台にとび、東北新幹線で、青森県八戸市に着いた。途中宮城や岩手は大雨で、田畑が冠水していたが青森県に入つては、見られなかった。昼食をすまして、八戸市博物館、是川中居にある八戸市歴史民俗資料館、櫛引神社宝物館(国宝の甲冑)を巡ってきた。

資料館は是川中居にある有名な縄文晩期の遺跡で、館は遺跡地内にある。樹木に囲まれ、トチノキが多くあり、実が弾けて通路にいっぱい散乱していた。館ではこれを集め、トチモチを作つて販売している。敷地内には竪穴住居も復元されて、縄文時代の雰囲気

が漂っている。是川中居遺跡は、新井田川にむかつて張り出した舌状台地上に位置し、広大な範囲に遺物が散布している。明治頃すでに知られていたが、大正九年(一九二〇)から昭和三年(一九二八)にかけて地主の泉山岩次郎、義弟の泉山斐次郎によつて発掘が行われ、数千点に及ぶ膨大な遺物が出土した。

遺物は土器・石器のみならず、弓・飾り太刀・鏡、形木製品・腕輪・櫛・耳飾りなどの木製品で、それらには漆が塗られ約三千年前の高度な加工技術や文化が分かった。



櫛引神社(八戸市)

クルミ・ナラ・トチ等の実の殻によつてできた厚さ八〇〜九五センチの層「特殊泥炭層」と呼ばれる。そこから、多くの生活用具や木製品が掘り出された。下は火山灰質の地盤になっている。

頭部には香炉の蓋のような透(すかし)があり、宝冠状の突起をつけて、大きな目が顔の大部分を占め(これが雪から反射する光を遮つて目を保護する遮光器をつけている)、全身に文様がほどこされ、大きさも三十五センチと大型で内部は空洞となっている。まさに晩期亀ヶ岡文化の象徴のような土偶である。

代のはじめの頃からあり、抽象的な表現であつたが、中期土偶は縄文時代の

頃から、足はないが頭部(胸部、両手をあらわした十字形の板状土偶がつくられ、晩期になると、あの青森県・木造町亀ヶ岡出土の土偶に代表されるものになる。



復元された竪穴住居(八戸)

遺跡は地表から一・四メートルから二・五メートルの泥炭層、次に是川中居遺跡の人達の食糧であつた

遺跡は昭和三十二年国史跡に指定された。また遺物は昭和三十六年(一九六一)に国の重要文化財に指定された。泉山氏の発掘品は一括してここに収蔵され展示されている。八戸市立博物館には、青森県・風張遺跡から発掘された

土偶顔面



合掌する土偶(レプリカ)



鳥頭土偶



土偶片

参照文献 縄文の美(八戸市博物館)・総合案内 青森県立博物館

第五六〇回 宗像大社歌会詠草

大野展男選毎月25日メ切



宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
 思ひ切り水を流して顔洗ふ迷ひ一つをふりきりたくて
 言い切つて余情をのこさない詠い方は流石である。

宗像市 田 久 巻 桔梗
 弾むこと押し反す筆抑へつつ短歌大会の看板書く
 弾むのは筆だけでなく作者の気持ちでもある。

福津市 中央 池浦千鶴子
 久びさにリュック背負ひて歩きをり背の温もりに子を思ひ出す
 感情のこもったいい歌。ただし、三句切れなので結句
 は「思い出し」と連用形して広がりを持たせたい。

福津市 若木台 野間 精一
 薄味で煮て食へと言ひわが友は聖護院大根の半分を呉れぬ
 ほほえましい友情。二句を「煮るがよろし」と結句を「半
 分呉れぬ」とした方が、すつきりとし余情がある。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
 耕運機止まるまで付くつもりらし鷺は耕す埃のなかを
 鷺と耕運機を詠つて秀逸である。それは結句の具体にある。

北九州市 八幡西区 吉田ウト子
 初春の海石に降り立ち初汐の黄金汲みたり代を經し瓶に
 重厚な歌だが、初春と初汐の重さなり。海中の岩(暗礁)の
 意の海石が気になる。舟でゆかれたのかも知れない。

うきは市 浮羽町 向 則正
 仕事帰り泊りに来たる二男坊汗と埃の匂ひまとひて
 上句を「二男坊仕事帰りを泊りに来」と三句切れにし、
 すつきりさせたい。

宗像市 田 野 森 甲子
 寒の中崩ぎは低く雪割草ピンクの小花ほのぼのと咲く
 いち早く春を知る植物に寄せるころである。初句、
 三句、結句とそれぞれ切れてリズムが悪いので、初句
 を「寒中を」結句を「咲かす」としたい。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ
 数々の思ひ出残る兄上に誕生祝ひの文が終かも
 兄への手紙も最後かも知れぬと病む兄を気遣う意だ
 ろうか。はつきりしない。「眠りみる妻を起して雪を
 見す或は今生の雪かもしれぬ」は参考になるかも知
 れない。

福岡市 南区 井田有久衣
 み社に寄りそうように寒桜うす紅の花春にさきがけ
 結句を「さきがけて咲く」と物に即して詠いたい。

宗像市 日の里 大和美由紀
 ほかほかと湯気立つ堆肥スコップでさつさつと軽トラに積む
 「堆肥を」とを入れる。

福岡市 柏原 加野シノブ
 庭芝生真白き水仙山茶花の垣根に咲きて日はのどかなり
 上句は「芝生には真白き水仙山茶花は」とすれば、
 景がはつきりとなる。

宗像市 光 岡 則松 芳子
 立春に花と綿毛の蒲公英が春を誘つて沿道に咲く
 二句を「まだ遠けれど」と、すつきり詠いたい。

宗像市 光 岡 森田富佐子
 自由レク百人一首友とする誰が勝つやらそれは楽しみ
 「自由レク」が判らないが、二・三句を「百人一首を友として」が
 いい。大和さんもこの作者も助詞を大切に使用して欲しい。

朱き花アロエは蜜をしたたらす睦月半ばの夕つひかりに
 一羽のみきたりて庭の梅に啼く目白は吾に甘ゆるごとく
 鬱はらふ声とも鬱の声としも雪の晴れ間を山鳩は啼く

選者詠

花粉の季節と
 なり、お困り
 の方も多いと思います。患患の通院
 する耳鼻科にもその影響があり、夕
 方には「待ち人数六十人」と信じら
 れない数の患者さんが連日押し寄
 せています▼これ決して病院が少
 ない訳ではありません。市内には他
 にも多くの耳鼻科がありますが、こ
 の耳鼻科だけが多いのです。その状
 況でも患者の減る兆しが全くない
 のは、この病院がCSを意識して取
 り組んでいるからでしょうか▼開業医
 です。先生はお一人ですが、その
 確かな診断はもとより、看護士さん
 の応対や施設の充実といった、患者
 本位の診察が行われています。特に
 驚いたのは、何と携帯電話で順番を
 取るシステムも導入されており、待
 ち時間が短くて済み、患者の負担軽
 減を図ろうとするその姿勢には頭
 が下がります▼乳幼児医療費の全
 額補助や児童手当などの自治体
 による行政サービス、急な発熱などに
 も理解していただける職場等、安心
 して通院することが出来ています
 ▼患患一人を育てるにあたり、様々
 な人の優しさに触れることができ、
 学ばせていただいておりますが、唯
 一心配なのは、その耳鼻科の先生
 あまりにも患者さんが多い為に体
 調を崩され、急遽午後からの診察を
 取りやめることが出てきたことが
 少し気がかりです。(M.O)

第五三五回 俳句作品集

宗像市 東郷 田中 憲象
 独楽の紐気の緩む如ほぐれけり
 宗像市 日の里 花田いつ枝
 朝刊に記事の細りし建国日

編集後記

花粉の季節と
 なり、お困り
 の方も多いと思います。患患の通院
 する耳鼻科にもその影響があり、夕
 方には「待ち人数六十人」と信じら
 れない数の患者さんが連日押し寄
 せています▼これ決して病院が少
 ない訳ではありません。市内には他
 にも多くの耳鼻科がありますが、こ
 の耳鼻科だけが多いのです。その状
 況でも患者の減る兆しが全くない
 のは、この病院がCSを意識して取
 り組んでいるからでしょうか▼開業医
 です。先生はお一人ですが、その
 確かな診断はもとより、看護士さん
 の応対や施設の充実といった、患者
 本位の診察が行われています。特に
 驚いたのは、何と携帯電話で順番を
 取るシステムも導入されており、待
 ち時間が短くて済み、患者の負担軽
 減を図ろうとするその姿勢には頭
 が下がります▼乳幼児医療費の全
 額補助や児童手当などの自治体
 による行政サービス、急な発熱などに
 も理解していただける職場等、安心
 して通院することが出来ています
 ▼患患一人を育てるにあたり、様々
 な人の優しさに触れることができ、
 学ばせていただいておりますが、唯
 一心配なのは、その耳鼻科の先生
 あまりにも患者さんが多い為に体
 調を崩され、急遽午後からの診察を
 取りやめることが出てきたことが
 少し気がかりです。(M.O)

宗像大社事務所
 発行所 宗 像

〒811-3505 福岡県宗像市田島
 電話 0940-62-1311(代)
 発行人 葦津幹之
 編集人 大塚宗延
 制作 セネラルアサヒ
 印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円